

中国山東省 世界遺産を訪ねて

まちづくり活動部門 研究員 松本 宏



いよし国際交流の翼御一行様 in 泰山の天街

平成19年秋、親会社（派遣元）が実施した「いよし国際交流の翼」に参加しました。この「いよし国際交流の翼」は、今回で11回目となり、東アジアを中心に毎年開催されています。国際的な感覚を養い、市民相互の交流を図れる良い機会ですが、市職員としては担当部署にでも行かない限り、年休を取ってまでは参加できないにくいものです。今回参加できたのも、親元（伊予市）を離れ、修行（えひめ地域政策研究センター）に出ているおかげだと感謝しています。

今回の中国山東省では、一般のツアーでは経験することが難しい現地の小学校訪問や日本語を学ぶ学生との交流会、今中国で最も美しい町の一つ「青島」市内観光と充実した内容の旅となりました。



孔林の入口「至聖林門」



皇宮建築様式が特別に用いられた「孔廟の大成殿」

した。その中で、中国を象徴する2つの世界遺産を紹介します。

孔子を敬う人々が集う都

孔子の生地である曲阜には、1994年に世界文化遺産登録となった「孔廟」こうびやう「孔府」こうふ「孔林」こうりんがあります。「孔廟」は、中国三大宮殿建築の一つで、孔子を祀る大規模な建物群からなっています。「孔府」は、孔子直系の子孫が暮らした住居で、



現存する建物は、明・清時代のものです。「孔林」は、樹木に覆われた広大な墓園で、孔子をはじめ孔家一族が眠っています。

孔子は、儒教の創始者として知られています。彼の死後、弟子が孔子との問答をまとめた「論語」があり、今でも地元小学校の授業として、その教えが伝えられています。訪問した小学校でも子どもたちの朗読する「論語」を聞かせていただきました。「論語」の教えには、他人に対するやさしさを示す「仁」を最も重要な徳として考えられています。「論語」を通して、中国でも道徳教育が見直されています。

人々を引き寄せる名山
中国道教の聖地として信仰の対象にもなっている「泰山」は、1987年に中国で最初の世界文化・自然遺産(複合遺産)に登録されました。標高こそ1524mと高くはないのですが、その歴史と格式により中国五大名山の筆頭に位置づけられ

天の上にある街「天街」から泰山の頂上「玉皇頂」までの道のり



天の上にある街「天街」から泰山の頂上「玉皇頂」までの道のり



歴代の皇帝が「封禪の儀」の折に彫らせた記念碑が至る所にある

ています。また、その成り立ちも古く、「泰山」を形成する岩は、25億年ほど前に、地球における最初の造山活動によって造られたと云われています。杜甫や李白が詩を贈り、秦の始皇帝や漢の武帝などの王たちも、国の象徴として奉ったそうです。山頂までは、7000以上の石段が敷き詰められ、これを徒歩で登る修験者や観光客が今も後を絶たないそうです。石段での登頂を目指したかったのですが、時間と体力の都合で、ロープウェイで南天門まで上がり、残りを30分かけて最高峰である玉皇頂に登り

つきました。あいにくガスがかかっています。絶景は見れませんが、壮大な岩山と歴代の王たちの碑が時代の深さを教えてくれました。帰国後、新聞で富士山と「泰山」が姉妹山提携を結んだことを知りました。これも一つの契機として日中友好が望まれます。

「四国八十八箇所霊場と遍路道」

さて、日本の世界遺産は、昨年夏に見銀山遺跡が加わって14となりました。四国には、その暫定リスト入りを目指している「四国八十八箇所霊場と遍路道」があり、世界遺産登録へ向けて官民一体となって気運が盛り上がっています。ただ、前例の世界遺産を見ると、世界遺産の登録は負の要素も持ち合わせており、それを理解した上での活動が必要となります。

舞たうん vol.92 の特集で「地域を結ぶへんろ文化」を取り上げていますが、1400kmにも及ぶ遍路道や宗教・宗派を超えて四国の地域社会が支え続けてきた「へんろ文化」は、希少な資産であり、物から心の時代といわれている昨今だからこそ、「お接待文化」と併せて、世界へ発信していくことが大切だと思います。「いままなせ遍路道なのか」一緒に考えてみませんか。そこには、究極の地域づくりがあるはずですよ。

●舞たうん vol.92 「地域を結ぶへんろ文化」<http://www.ecpr.or.jp/work/mytown/mytown6.html#92>
●「四国へんろ道文化」世界遺産化の会 <http://88henro.org/>